

としまち研掲示板

△▼△としまち研 各部会の次回開催予定△▼△

共同建替え部会 コーポラティブハウス部会	6月18日(木)	人と暮らし部会	6月29日(月)
団地・マンション再生部会	6月24日(水)	総務部会 広報部会	6月23日(火)

としまち研会員の方であれば誰でも部会に参加できますので、是非ご参加ください。

東松島事務所での勤務について

(東日本大震災復興支援委員会での阿部久美子さんからの話を一部省略して掲載いたします)

2年半勤めさせてもらいました。私は、めまぐるしい毎日に会議の内容に付いていくのが精一杯、内容が難しく正直付いていけないこともありました。(途中省略)どうしても協議会事務局を続けられず本当に申し訳ない気持ちでいっぱいですが、あおい地区は、すばらしい日本一の街を完成させることと思います。

あともう一つ、私事ですがお話をさせてください。協議会事務局から発送していたピンクの封筒は杉山さんに色を選んでいいと言ってもらったものです。

震災の1年半ほど前に息子の脳腫瘍が見つかり、開頭手術で摘出して細胞検査をしないと悪性か良性かはっきりしませんでした。この同時期に脳梗塞で倒れ、ほとんど寝たきりになってしまっていた母を、会社勤めもしながら週に一度ほどお風呂に入れるため実家に行っていました。更に、その冬は娘の高校受験も重なりました。

そんな中、息子の手術が近づき不安と恐怖の毎日で、母の介護にほとんど行けなくなりました。そして、息子の手術が無事終わり良性の腫瘍との診断でしたが、その半年後、母は亡くなってしまいました。私は、母の命と息子の命を選ぶような事をしたのではないかという罪悪感で、自分を責めるようになりました。そんな日々の中、東松島事務所の面接をしてもらうことになりました。面接の日の朝方、うとうとしていたら靈感も何も感じない私なのですが、「母が来た。」と無意識に感じ私の背中をふわっと温かくしました。その瞬間、心の重荷が取れ、なんともいえない安心感に包まれました。その母が亡くなる三週間前の「母の日」に花を買ってくるから何色がいい?と聞いたらピンクと答えました。母が私の背中に残した温かい感触を被災者の方へも...と思いピンクの封筒を選ばせてもらいました。あおい地区の方からは、ピンクの封筒を楽しみに待っているといってもらえるようになり、あの面接の朝、後押ししてくれた母への親孝行もさせてもらったと思っています。としまち研の皆さまには、現地の平凡な主婦の私に、いつも分かりやすい言葉で話してくれて、長い目で接していただき、同じ現地事務所の青山さんにも助けられ、何とかやってこれたと思います。本当にありがとうございました。



杉山洋子さんから阿部さんへ感謝の言葉と記念品(目録)贈呈

編集後記

急に夏のように暑い毎日が続いていますが、皆さん体調を崩されていませんか。としまち研の総会にて、「おいらのまち」では新企画『我が家の最近の話題(仮)』をシリーズ化させることを活動方針として発表しました。と言うことで、事務局からいきなり(ある程度前もって...?)原稿のお願いがある可能性があります。コーポラティブハウス等にお住まいの方からの近況報告等、掲載していきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。(事務局 飛澤)

〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町33 COMS HOUSE 2階
tel 03-5207-6277 fax 03-5294-7326
E-mail info@tmk-web.com ホームページ http://www.tmk-web.com/
皆さまからのご意見、ご感想をお待ちしております。

としまち研現在の会員数
正会員61人 賛助会員37人
編集発行人 平石郁夫
事務局担当 飛澤玲奈

としまち研会報 第75号

おいらのまち

2015.5

発行 NPO 都市住宅とまちづくり研究会 理事会

第15回としまち研東日本大震災復興支援委員会

去る4月14日(火)、第15回としまち研東日本大震災復興支援委員会が32名の参加のもと開催されました。

はじめに、委員会を代表して私から「住民主体の震災復興まちづくり」の取り組み」と題してこの間の取り組みを報告しました(報告内容はデータであります)。

つづいて、この3年間に、それぞれの専門性を生かし、復興に向けて行った具体的な支援について、委員会メンバーからの発言がありました。以下、当日の発言を踏まえつつ私の独断と責任において活動内容を報告します。

まず、小口優子さんはワークショップ(協議会では「井戸端会議」という日本語に翻訳?されて定着)の指導や運営をし、協議会設立とその後の運営の礎をつくってくれました。



第15回 東日本大震災復興支援委員会の様子



2011年12月5日
視察団最初の東松島市訪問

つぎに、協議会立ち上げのときから「としまち研東松島事務所」所長としてずっと頑張っていた阿部久美子さん、集団移転先の土地利用計画について具体的な支援をしてくれた松坂篤さん、協議会の街並みルール検討部会で街並みルールづくりを支援した石坂堅志さん(宿舎での石坂シェフの食事は大評判!)、街並みルールのパンフレット掲載用にイラストを描いてくれた濱田政和さん、パースを描いてくださった山本ヒカルさん、パンフレットの構成・作成をしてくれた三上弥生さん、事業全体の調整と終盤には市の災害公営住宅の原案の修正から、どの家に誰が住むかを定める調整役をしてくださった三浦史郎さん、自分で家を建てる皆さんの区画を決めるルールづくりや新しい町の自治組織のあり方の素案づくり及びまちづくり通信の後半を担当した宮本愛さん、協議会設立時からのまちづくり通信づくりをはじめ協議会の運営全般を担当したとしまち研事務局の飛澤玲奈さん。

…このあとも文書は続きますが、今号はここまで。続きは次号にて…。(としまち研理事長 杉山昇)

おいらのひとりごと

『おいらのひとりごと』はとしまち研会員によるリレー形式のエッセイです。

『ショートショート』としまち研 本間充一

小中学生の頃、星新一のショートショートが好きだった。飽きっぽい僕には、一話が短いのが良かった。文章も平易で、読み易かった。有りそうで無い現実と、あるかもしれない未来が文章の中にあった。

なかでも『番号をどうぞ』という短編を覚えている。未来のコンピューターで管理された社会。お金持ちの男性が休暇中の湖でボートから落ち、カード等を全て紛失する。濡れてしまった服を買おうにもカードが無い。銀行でも預金の番号が分からない。どこへ行ってもだめ、駆け込んだ警察もだめ。住宅番号、出生番号、保険の番号、番号がひとの存在を証明する社会。困り果てた主人公は、やけを起こし、人を殴り、物を壊す。警察に逮捕されると指紋から本人が特定され、罪が確定する。しかし本人はやっと社会に戻れてほっとする、というストーリー。これが1968年の作品。来年からマイナンバー制度が導入される。ひとの想像力はすごい。

※次号の『ひとりごと』は関真弓さんです。お楽しみに。

一木会ご報告(原則、毎月第一木曜日に行う勉強会・交流会です)

☆第236回一木会(2015. 4. 2)

マンション建設、分譲、管理と実務経験を積み、現在は、リガール日本橋人形町・団地管理組合理事長として「防災力」の向上に尽力されている鈴木健一氏に、「マンションにおける防災力とは～実践からの声～」というテーマでマンションにおける防災のお話をしてもらいました。



参加者の皆さんは、自身の防災対策とともに、住んでいるマンションの防災対策(コーポラティブハウスにお住まいの方も多数ご参加いただきました)に対して考え方を見直すよききっかけになったのではないのでしょうか。

☆第237回一木会(2015. 5. 7)

株式会社Nプランニングの成田至弘氏に、「マンションの修繕について」というテーマでお話しいただきました。



マンションを良好なストックとして維持するための方策をわかりやすく解説していただき、あっという間の時間でした。

お話の後の質問タイムでは、参加者の皆さんご自身がお住いのマンションでの困りごとなど、個別に聞きたい話がたくさん出てきて、とても盛況な会になりました。

今後の一木会予定

☆6月(6月4日)【第238回一木会】

明治学院大学法学部教授 大野武氏 「定借マンションの近未来を考える」

☆7月(7月2日)【第239回一木会】

映画「波伝谷(はでんや)に生きる人々」劇場公開プロモーション・イベント+我妻和樹 監督講演

としまち研第15回通常総会 開催報告

5月28日(木)、としまち研の第15回通常総会が開催されました。当日の出席者は33名。前回に引き続き、平成26年度も複数の事業でお世話になった(一財)首都圏不燃建築公社の谷理事を来賓としてお迎えし、15周年という節目の年の総会となりました。



総会終了後の集合写真

各部会の今年度の主な方針は、以下のとおりです。

【共同建替部会】地権者主導による等価交換事業に積極的に取り組む。密集市街地での共同建替えについても行政の密集市街地改善計画をもとに、行政にアプローチする。

【コーポラティブハウス部会】15周年記念となる今後の活動に向けた出版を実現させる。木造戸建コーポラティブハウスや小規模な案件も精力的に取り組む。

【団地・マンション再生部会】昨年度に引き続き、マンション建替えコーディネートと大規模修繕コンサルタントを中心に活動を行い、また、マンション管理組合からの様々な相談に対応していく。

【人と暮らし部会】コミュニティカフェを東松下町々会で計画、区分所有=マンションという概念ではない方式のすまいとして、コミュニティハウスを計画することを目標とする。

【広報部会】コーポラティブハウスの新規案件募集を見据えた広報活動の検討、「おいらのまち」の定期発行を行う。

【総務部会】いずれの部会にも属さない、としまち研を支える幅広い活動をする。そして、今年度から、「としまち研東日本復興支援委員会」を改め、「としまち研災害復興まちづくり支援委員会」を立上げ、万一、大きな災害が発生した場合に活用することができる体制を準備することにしました。

また、今年度はとしまち研役員の改選が行われ、新たに三浦史郎さん、山崎裕之さん、石坂堅志さんに理事をお願いすることになりました。(としまち事務局 飛澤玲奈)

神田祭に参加しました

2年に一度開催される神田祭が5月9日(土)、10日(日)に行われました。今回も会員やお知り合いの皆さんに広く呼びかけ、一緒にお祭りを楽しみました。

また、前回から恒例となりました石坂シェフの海鮮チヂミを、COMS HOUSEの前で炎天下の中、お住いの方にもお手伝いいただいて140食分を焼き、給与として振る舞いました。

神田祭に参加していただいた方々からの感想等をいただきましたので、掲載いたします。

「神田祭り チヂミ顛末記」

金曜日の深夜、ショーリショーリショーリ、シュリシューリシュリシューリ 2本の包丁を丁寧に研いだ。

土曜日の朝、長女が起きて朝ごはんを食べるとすぐに野菜を切り出した。日頃から自慢するだけあって、早くリズムカルで正確な包丁の音が続く。「さすがだね!」と声をかけると、得意顔で返してきた。少しして、音がしないので覗いてみると、野菜だけでなく指も切って血が出ていた。得意顔の後なので少しづつ悪そうに苦笑いしながら止血していた。

屋前に次女が起きてきて軽い朝ごはんを済ませると、長女に手順を確認し、彼女独特のゆったりしたペースで別の野菜を切り始めた。

そして日曜日、お手伝い隊に簡単に段取りを説明し、2枚の鉄板でためし焼きをする。最初は鉄板の加減が分からずバラバラになったが、味見用で配り、自分も一口食べると大体思ったような味だったので、こんな感じでお願ひしますと焼きの担当を外れた。

すると何もすることがなくなり、うろろろしてみたが直ぐに飽き、鉄板前に戻る。見ているとみんな楽しそう。いろいろな役割の作業をそれぞれが嬉しそうに取り組んでいる。初めてなのに自信満々に見える。何か顔が輝いている。さすが神田祭、さすがとしまち研、さすがチヂミ(?)。

神輿が廻ってきてチヂミを渡す。町会長さんがわざわざお礼に来て下さった。

一段落したのでビールでも飲もうかなと思ったが、いけねえ、次女を河口湖近くの寮まで送る約束の時間が来ていた。…車は動くので今から迎えに行きます…。(石坂堅志)

〔チヂミの準備は金曜日からはまっていたのですね。ご家族の皆様もご苦労様でした!〕



チヂミ隊(?)の皆さん



一番前の子だ〜れだ?



御幣持ちの成島さん



女性部の皆さん 焼きそば・フランクおいしかったです!!

私も年甲斐もなくうれしくて頑張りすぎました。(肩の皮が最後に剥けました。)

楽しかったですね、杉山さんをはじめ皆さんの準備、後片付けが本当に大変だったと思います。改めてお疲れ様でした。(國澤正明)

〔皮がむけるほど担がれたとは…一生懸命担がれた名誉の負傷ですね!お疲れ様でした。〕

神田祭では大変お世話になりました。お神輿を担ぎだすと、皆がだんだん熱くなり、日常の自分を変身させていくエネルギーに圧倒されました。

御幣を持って先頭を歩く役をいただきましたが、歩く事の難しさを知りました。祭に参加して地べたを歩いて初めて得られる実感でした。半纏を身に着けた時から、わくわく感が高まりましたが、とにかく参加して実感したことが嬉しかったです。(成島哲子)

〔連日参加の夕方に驚かされました。ぜひ2年後もご参加ください!〕